



介護予防・日常生活圏域二一ス調査

結果報告

当町では、高齢者福祉事業全般における基本的な方向性を定めるものとして、3年ごとに「高齢者保健福祉計画」を策定しております。

今年度、第10期（令和9年度～11年度）計画を策定するため、下記のとおり二一ス調査を実施させていただきました。調査にあたり、多くの方々にご協力いただき、心より感謝申し上げます。この調査結果を踏まえ、次期計画において、実効性のある具体的な施策として反映していきます。

今回は、その調査結果の中から見えてきた課題についてまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査目的 第10期高齢者保健福祉計画を策定するにあたり、要介護状態になる前の高齢者の日常生活リスクや社会参加状況を把握し、地域の抱える課題を特定するための基礎資料とすることを目的に実施。
2. 調査対象 令和8年度中に**65歳以上**となる方（「要介護」の認定を受けている方は除く）
3. 調査期間 令和8年4月1日～4月24日
4. 調査内容 全66問（選択回答形式65問、自由記述形式1問）
5. 調査方法
 - ・ 調査票の配布：郵送
 - ・ “ 回収：郵送または町内8か所に設置した回収箱での回収
6. 対象者数 **1, 466名** ※ 前回(令和5年度) 1, 444名
7. 回答者数 **929名** ※ 前回(令和5年度) 924名
8. 回答率 **63. 4%** ※ 前回(令和5年度) 64. 0%
9. 調査結果 調査集計及び課題分析の結果全容は、町ホームページ（下記QRコード）に掲載しております。また次ページには、当町が抱える5つの課題について整理しています。

調査結果は
こちらから
(町ホームページ)



調査結果に関するお問い合わせ先
新冠町保健福祉課（介護支援係）
電話：47 - 2113（直通）



調査から見えた

新冠町が抱える5つの課題

1. 外出の機会の減少と閉じこもりの進行

高齢者の27.0%に閉じこもり傾向！（外出頻度が「週1回以下」）
特に85歳以上の約4割、90歳上では約半数



27.0%
に閉じこもり傾向

外出が減っている主な要因

- 身体的要因「足腰が痛い」(49.4%)
- 心理的要因「外での楽しみがない」(25.1%)
- 環境的要因「交通手段がない」(17.7%)



閉じこもりが招く「負の連鎖」



もの忘れが多いと実感



社会からの孤立



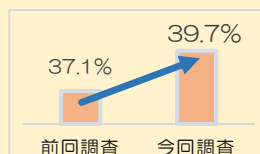
孤食
(1人の食事)

2. 心の健康と社会的孤立

高齢者の39.7%にうつ病の兆候が！
前回調査(R5)よりも増加…



約4割(39.7%)
にうつ傾向の兆候



主な自覚症状

- 「楽にできていたことがおっくうに感じる」(43.6%)
- 「わけもなく疲れたような感じがする」(37.0%)

社会との交流の欠如

○過去1か月間に会った友人「0人」
⇒110名(11.8%)

○自治会やサークル等の社会活動
に参加していない
⇒273名(29.4%)



3. 認知機能への不安と相談窓口の認知不足

高齢者の42.5%は自身のもの忘れの多さを実感！

しかも、認知症は今後の生活で不安に
感じることの『第2位』にランクイン



42.5%
が「もの忘れ」
を自覚



- 1 健康に不安がある
- 2 認知症にならないか
- 3 今後も歩けるかどうか

「支援との壁」

一方で、認知症に関する相談
窓口を「知らない」という方

53.4%



さらに、
もの忘れの多さを
実感しているが、
認知症についての
相談先を知らない

24.2%



4. 日常生活の維持

将来手助けが必要となるとされる3大ニーズ！

第1位 病院の送迎

30.0%

第2位 除雪

26.9%

第3位 買い物

22.8%



「手助けしてほしい人」と
「手助けしてあげられる人」のミスマッチ

「手助けしてほしい」

- 病院の送迎 279名
- 除雪 250名
- 買い物 212名



「手助けしてあげられる」

- 病院の送迎 82名
- 除雪 87名
- 買い物 106名

5. 経済的不安と支援とのギャップ

高齢者の4人に1人が経済的に苦しい…



経済的に
「大変苦しい」「やや苦しい」

物価の高騰などで、
外出を控える人も…



金銭的な困難



適切なサービスを知らない



頼れる相談先を知らない



身体的な衰えを感じながらサービスを受けていない方も…
「支援のギャップ」

